



みなさん、こんにちは

11月22日 諏訪中学校におじゃまして 中学3年生の生徒さん達に、がんについてお話させていただく機会をいただきました。

事前に先生方と打ち合わせた上で内容の概略は決めていました。

中学生に講義するのは、学生時代に塾講師のアルバイトでした以来でしたので、20年ぶりでしょうか、よい反応が得られるどうかと少し心配はしていました。

事前に私に聞きたいと生徒さん達が考えてくれた内容は、先生方から教えていただきましたので、それらは全て盛り込む形での約50分の講義となりました。

自分なりにメッセージを込めて内容を盛り込みましたが、今回は大腸腫瘍の内視鏡による切除の動画もみてもらいました（私が処置したものです）。

私は腫瘍内科医ですので、頼まれる講演の題目としては、がんの薬物療法の話がどうしても多くなります。

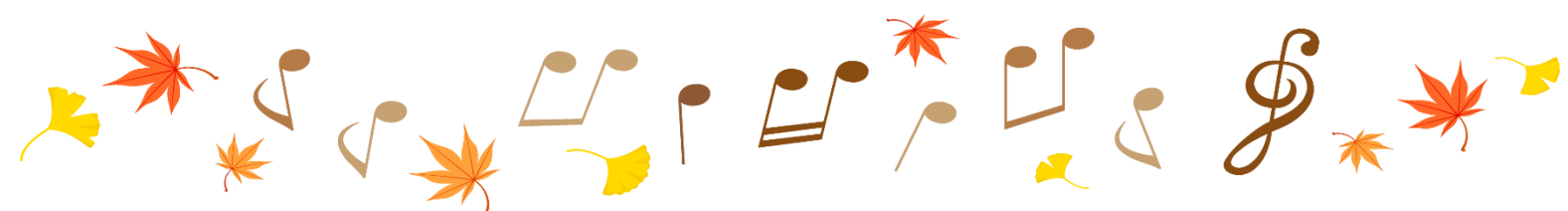
仕方ないことですが、薬の話って眠さを誘いますよね。

なかなか専門外の人に興味を持ってわかりやすく説明するのが難しいところです。

時間をかければ理解を助けることもできそうですが、拒否反応みたいな感じを受けることもあります。それはそれで当然かなとも思います。

外科系の先生は講演で手術の動画とかをだすので、やはりビジュアルに訴えかけられることもあり皆様の受けがよく、常々うらやましいと思っていました。

今回は自分一人の講演なので気兼ねなく内視鏡治療の動画もみてもらおうとおもった訳です。





早期のがんで本当に小さい段階で見つければ、カップラーメンのお湯をわかすぐらいの時間で、完治させることもできるのだよ、だから、早く見つけれられるように検診を受けるようにしてね ということなんですけど、そうした思いが届いてくれたとすればよかったです。

また、当院を受診していない人でも相談できる窓口である『がん相談支援センター』というものがあることを生徒さん達（先生方もご存じなかったようで）に知ってもらうこともできました。

相談支援センターに携わる方々は聞き上手の方が多いですので、遠慮なく、まずは電話をかけて相談してみてもと思います。

今回は諏訪中学校での授業でしたが、来年以降もまた同校でもお声がけいただけるとありがたいなと思いますし、他校においてもお誘いいただければ喜んで『がん教育』に携わりたいと思いますので、ご依頼をお待ちしています。

当院の広報か、がん診療推進室までご連絡いただければと思っています。

